

平家物語圖會  
前編  
四

13  
2693  
4





18  
+673  
4

平家物語圖會卷之四

目錄

- 主上を降し春宮踐祚あり奉る。高倉宮の謀叛頭を討つ
- 中原康貞紫藤を松より折く奉る圖
- 源三位入道高倉宮の謀叛を勧奉る圖
- 長谷部信連剛勇の働。高倉宮園城寺入御衆徒を頼る
- 伊豆守仲綱が名馬木下小六波羅ゆく鐵燒まる圖
- 三位頼政入道父子自害。高倉宮の最期。三井寺炎上
- 足利又太郎田原忠綱宇治川を渡る圖

平家物語圖會卷之四



六條亮大夫宗信臆病の圖

以上

平家物語圖會卷之四目錄終



平家物語圖會卷之四

東武 高井蘭山翁述

主上（上皇）降（下）春宮（皇太子）を踐祚（即位）する。高倉宮（高倉院）に謀叛頭（謀叛の首魁）と名付（なづ）を閉（と）せり。治承四年正月元日（治承四年正月一日）法皇（法皇）の鳥羽殿（鳥羽院）に相（あ）入道（入道）赦（ゆる）りて故年頭（故年の頭）の慶賀（慶賀）ふ。入（い）る人（ひと）もな（な）り。唯（ただ）故少納言（故少納言）入道（入道）信西（信西）の子息櫻所（櫻所の）中納言（中納言）重教（重教）卿（卿）其京（其京）左京大夫（左京大夫）長教（長教）斗（斗）宿（宿）を（を）と（と）ける。同（同日）廿日（廿日）春宮（春宮）を袴着（袴着）ちりて（りて）比（比）小麻（小麻）那始（那始）とて。目（目）を度（度）る（る）我（我）も（も）鳥羽殿（鳥羽殿）の耳（耳）の餘所（餘所の）不（不）の（の）ふ（ふ）少（少）一（一）百（百）の（の）ま（ま）。二月廿日（二月廿日）主上（主上）異（異）る。心（心）恙（恙）も渡（渡）り（り）せ（せ）る（る）へ（へ）ぬ（ぬ）御位（御位）を（を）押降（押降）し（し）る（る）春宮（春宮）踐祚（踐祚）あり。皆（皆）是（是）太政（太政）入道（入道）我（我）の（の）致（致）所（所）。主上（主上）八（八）十（十）代（代）高倉院（高倉院）は法皇（法皇）登（登）る（る）皇子（皇子）也（也）。三種（三種）の神器（神器）を渡（渡）し（し）る（る）上（上）建（建）部（部）陣（陣）の（の）集（集）り（り）。故事（故事）先（先）例（例）に（に）任（任）せ（せ）行（行）じ（じ）ふ（ふ）左大臣（左大臣）殿（殿）陣（陣）に（に）知（知）り（り）。議位（議位）の（の）る（る）。仰（仰）せ（せ）と（と）意（意）ある（ある）人（人）は（は）涙（涙）を（を）流（流）し（し）。懷（懷）を（を）傷（傷）め（め）ら（ら）る（る）に（に）自（自）分（分）より（より）御位（御位）を（を）儲（儲）君（君）に（に）渡（渡）す（す）。

平家物語圖會卷之四

二

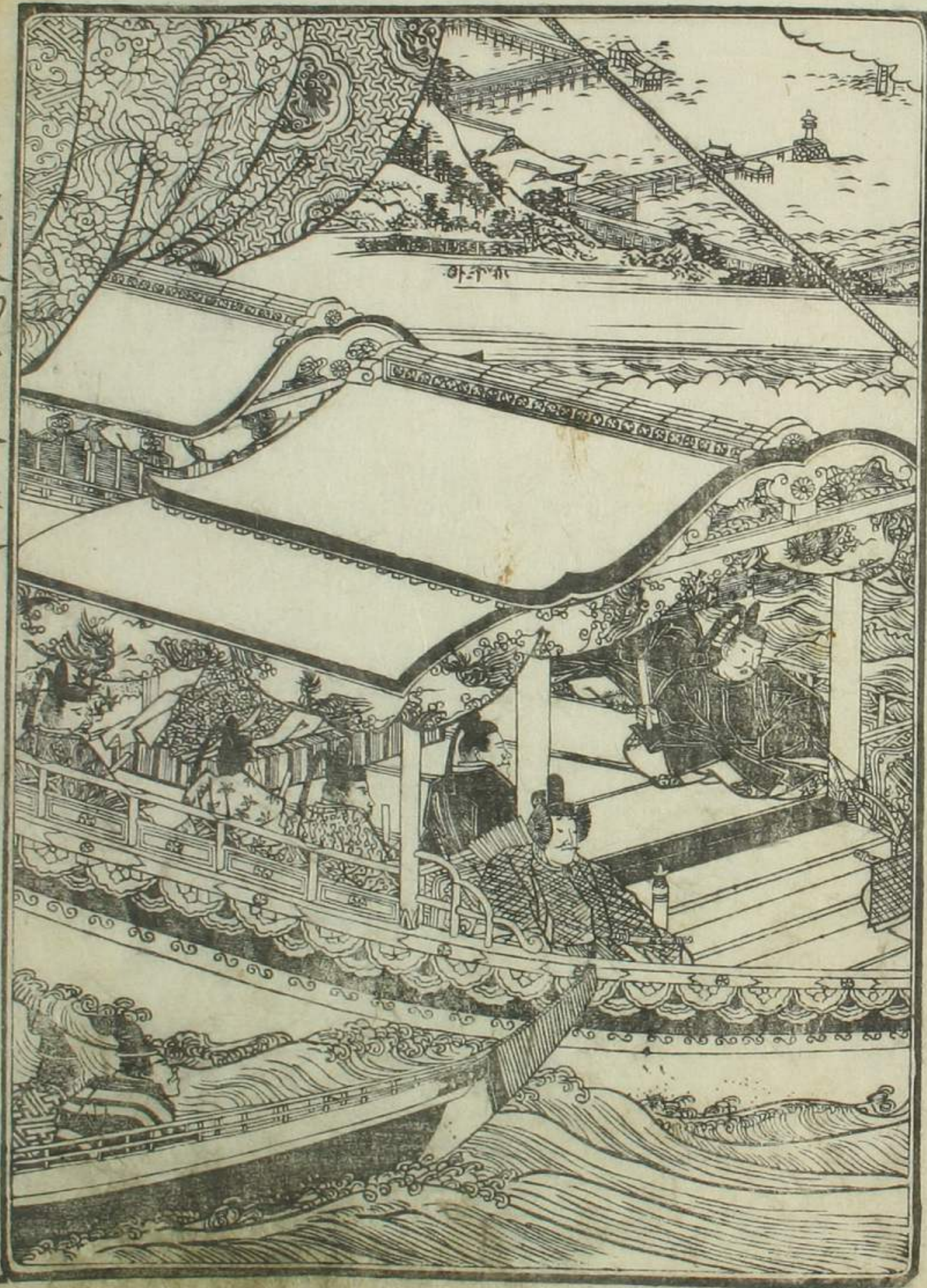


すく。麻姑射の山の中も。崩れあがり。さすを以石方と云ふも哀れ。多岐目  
ぞう。況や是れ心ちるるも。押下ささせさるる内中も。ちりく思ふり。  
侍する山室物。品々司と。新帝の皇居。五條内裏へ渡り。なる。閑院殿  
火の影幽小雞人の声も。留り。滝口の文籍も。絶め。さ。故き人。か。目出  
度祝の中も。今更哀れ。覺え。涙を流し。袂を濡さぬ。さ。り。新帝今  
年三歳。あ。さ。い。つ。う。う。う。讓位哉と。人々私語合はけ。平大納言時忠  
卿。乳母帥典侍のま。う。依。今度の讓位。い。う。う。誰が傾け  
登。異。周の成王三歳。晋の穆帝二歳。我朝也。近衛院三歳。六條院  
二歳。皆。襦袢。包。衣。帯。を。正。ま。さ。ら。う。た。或。攝。政。負。位  
小。即。ち。或。母。右。抱。く。朝。小。臨。り。就。中。後。漢。の。孝。章。皇。帝。へ。生。ま。り  
百日。小。踐。祚。あり。先。蹤。和。漢。か。く。の。ま。う。と。り。され。有。職。の。入。穴。掃。

り。さ。さ。さ。それ。其。等。の。能。例。だ。名。と。つ。か。た。合。は。入。道。殿。夫。婦。ハ  
外。祖。父。母。と。く。准。三。后。の。宣。旨。を。蒙。り。年。官。年。爵。を。給。と。上。日。の。者。を。召  
仕。繪。書。花。つ。け。る。者。を。か。へ。入。偏。院。官。の。ど。く。入。當。三。月。上。旬。上。皇。高。倉  
安。藝。の。嚴。島。御。幸。の。催。り。帝。王。位。を。す。ま。せ。り。諸。社。の。御。幸。始。ハ。八。幡  
賀。茂。春。日。定。例。ハ。白。河。院。ハ。熊。野。今。の。法。皇。ハ。日。吉。山。王。なり。此。度。ハ。上。皇。深。見  
思。石。乃。彼。神。ハ。平。家。崇。敬。他。小。異。ち。表。小。平。家。也。同。心。法。皇。何。と。う。押  
籠。ら。せ。座。上。入。道。相。國。の。心。を。和。げ。ん。為。裏。少。深。き。立。願。も。あ。ん。と。  
推。量。も。然。る。山。門。の。大。衆。王。城。の。地。辺。を。越。て。我。山。へ。こ。そ。御。幸。あ。る。を。  
其。後。々。々。神。輿。を。振。下。し。ま。り。御。幸。を。渡。り。留。り。憤。り。閑。院。殿。へ。道。殿  
駁。と。種。々。宣。旨。也。漸。大。衆。靜。了。同。十七。日。御。幸。山。門。出。り。先。相。國。の。北。の  
方。二。位。殿。の。宿。所。八。條。大。宮。へ。立。寄。翌。日。入。道。の。亭。小。入。其。日。の。暮。方。宗。盛

平家物語 卷之四





下取物語圖會卷之四



中原康貞  
紫藤を松多  
折と献る  
圖

一室村言圖命之六







君も臣も感涙を催されける。諸未社皆心幸あり。大宮より五町斗の山を廻るせり。儲の宮へ参りて公興僧正首を拜殿の柱に貼りて

雲井より流るる流の白く不契ア我法とぞこれ

神主佐伯景廣加階従上の五位。因司藤原有綱品上らして従下の四品

ちび小院の殿上を赦さる。座主尊永法眼みらる。神慮も動き入道

相國の心も和ぎひるえとえ。同廿九日還御の舟飾り。推公は外折

節波風烈けし。漕假させ最嶋の内。瑛浦小舟らせり。大明神の石

残惜小歌仕と人こと上皇の仰あはせ。隆房少將

立ぬる名残もありの浦ち里六神も恵み成かるとる。あは波

夜半小風静りけし。六舟出させ。備後國瀬波の泊み着せり。此処なる應

保の比既。其比羽の法皇と院崇徳院の御幸の時。因司藤原為成が造りて

所のありし。入道殿也。設小飾をれぬ。さまた上皇そまへ入らる。今日卯月朔日

衣更との入るる。各都の工。衣宜ひ出。旅あり。岸小色深。藤

の松枝。小咲く。やとける。上皇。殿覧あり。あの花折せ。と仰け。大宮大納

言隆季卿承つ。左史生中原康定。楳船小乗。と折節。御前を僧通

一。石と。折小。松の枝。多。小。あ。せ。これ。心。を。せ。と。御。感。此。花

中。歌。仕。と。仰。け。隆。季。大。納。言。

あ。と。せ。登。ん。君。が。鞍。は。藤。波。の。松。の。枝。あ。も。う。と。め。る。の。れ

二日八備前の見嶋。小。あ。ひ。五日八播磨。因山田の浦。見。下。り。八。輿。空。福。来

入。多。ひ。六。日。所。く。也。登。覽。池。中。納。言。頼。盛。卿。の。山。庄。荒。田。追。也。覽。は。れ。不

福原を立せり。入道の家。の賞。を行。入道相國の養子。丹波守

清國正下の四位。入道の孫。越前少將。八。四位。の。従。上。と。ぞ。笑。へ。其。日。寺。井。小



着せり。八日ハ此迎の公卿殿上人鳥羽の草津を去りて還御ハ鳥羽殿ニ  
 御幸也。直相國の西八條の亭ハ入せり。同日新帝御即位大  
 極殿ニ行る。此小御炎上の後造り出さる。故太政官の廳ニ  
 行る。此公卿會談あり。九條殿の仰小。此凡人の家取らる。公  
 大所躰の所ハ紫宸殿ニ然。此一とあり。此紫宸殿ハ此即位あり。  
 去。康保四年。冷泉院紫宸殿也。あり。主上ハ邪氣也。大極殿ハ  
 の行幸叶ざり。此故。後三條院延久の佳例。任せ。太政官の廳ニ  
 行る。此物をと。人々合はれ。九條殿の對。此多。上ハ左右及む。  
 春宮踐祚あり。此中宮ハ弘徽殿より。仁壽殿へけり。此高  
 座へ坐せり。平家の人々皆仕せり。其中ハ小松殿の公。此去。年  
 大臣薨せり。色也。此籠居せり。此素禪。藏人左衛門權佐定長今

度の此即位ハ遠亂也。目ハ度松を厚紙十枚斗ハ書。二位殿相國の  
 此ハ笑を會。悦。此花也。目ハ度。此ハ世間ハ猶也。  
 此ハ其比二院。後日何使皇。第二の皇子茂仁親王と。此ハ母ハ加賀  
 大納言季成卿の女也。三條高倉ハ坐。此ハ高倉宮と。此ハ松。此ハ去。此  
 萬元年十月十五日曉。此年十五。忍。此近衛河原の大宮の御所也。  
 密ハ元服あり。此ハ跡嚴。此遊。此ハ文覺も勝。此坐。此ハ太子ハ  
 此立位也。此即。此ハ故建春門院の御猜。此依。此ハ押籠。此ハ  
 此ハ花の下。此ハ春の遊。此ハ紫臺を揮。此ハ自作。此ハ書。此ハ月。此ハ秋。此ハ宣。此  
 玉笛を吹。此自ら雅音を操。此ハかく。此明。此暮。此程。此ハ  
 四年ハ此年三十。此ハ其比近衛河原ハ結。此源三位頼政ハ  
 道。此夜密。此宮の御所。此ハ君ハ天照太神以來相承正統神







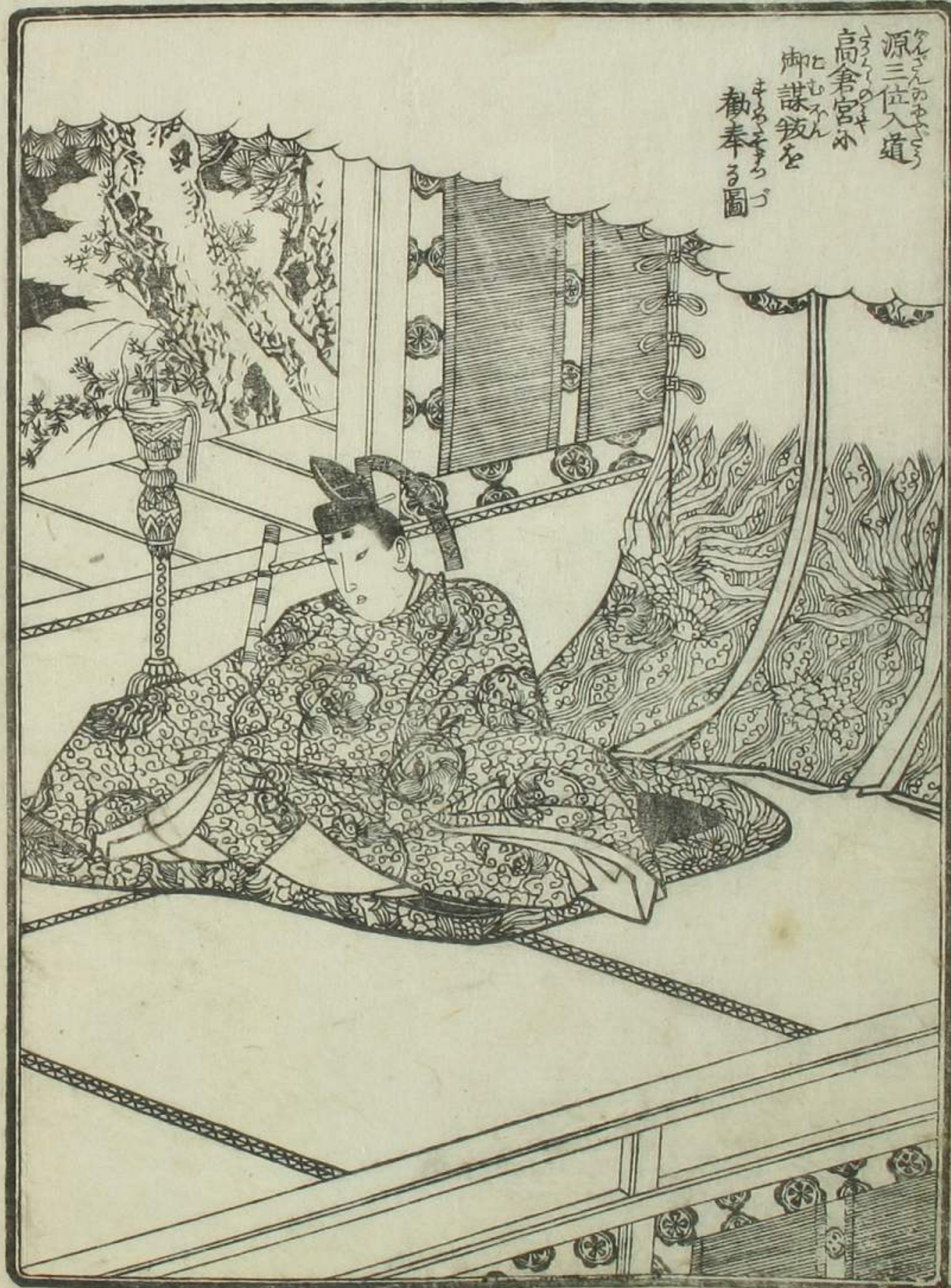
主従の礼も猶劣たり。國ハ國司ハ隨ハ庄ハ預リ所ハ召使ト公ハ雜ラハ  
 駐立ラシム。安カリイモ。情當世の躰を以テ上ハ隨ヒテ格チレタ。  
 内ハ一向平家を借ね者のハ死君ハ召立セ給ヒテ。今旨を給テ程  
 々々ハ國ハ源氏ハ夜を日ハ續でも弛上テ。平家を亡さんと時日を廻  
 づ。其儀ハ入道も幸寄とて。若き子ハ餘ヨリハ引具  
 一とぞ。此ハ此と。阿古丸大納言宗通卿の孫備後前司季通ハ  
 引も。少納言維長トモハ勝。相人ハ相少納言ト人トヤケ。此宮  
 せん位ハ即せ。相構と天下の。天照太神の告。折節ニ位入道  
 と召立せ。新宮十郎義盛を召。藏人ハ行家と改名。

今旨の使ハ東國下。四月廿八日都と立。近江國より始美濃  
 尾張の源氏ハ次第ハ觸下。五月十日伊豆の北條蛭ヶ小嶋ハ  
 着。流人前右兵衛佐殿ハ今旨と。夫より信太三郎先生義  
 教ハ兄ハ給。信太の浮嶋下。又木曾冠者義仲ハ甥ハ取  
 せん。山陽道ハ趣。熊野の別當堪増ハ平家重恩の才。何と  
 謀叛を起。那智新宮の者ハ定。源氏の方ハ。平家のハ因深  
 中さん。混甲十餘人新宮の湊。新宮鳥井法眼高坊法眼  
 侍。宇井鈴木水屋龜甲那智ハ執行法眼以下。都合其勢千五百餘  
 人。源氏方ハ免。射。平家方ハ角。射。





平家物語圖卷之四



源三位入道  
高倉宮  
御謀叛を  
勸奉る圖

平家物語圖卷之四

六



互ふ矢叫の声退轉もろく。鏑の鳴止間もぬく。三日が程戦けし。法皇の法  
 眼湛増へ家の子郎等。多く負我身も。負辛き命生泣く本宮。  
 歸上とける時。鳥羽殿も。馳の驟。走り。五月十二日の刻。  
 斗より。舗時。法皇甚恠せ。近江守仲兼。其時鶴藏人。ゆくゆい。  
 一。成御前。百安倍泰親。が并へ行吃と。勘させ。勘状を取。これ仰ける。  
 仲兼。急ぎ。走到。と。法皇の旨。と傳へ。は。頓。勘文を。仲兼。是を。  
 取。鳥羽殿へ。入。と。さ。日。の。晩。これ。守護の武士。茂。救。は。  
 勝。へ。知。築地。を。超。大床。の下。を。這。て。御前の。切。版。より。泰親。が。勘。状。は。  
 急。ぎ。せ。ぬ。是。を。獻。覽。ある。ぬ。今。三。日。の。内。の。法。皇。が。び。ぬ。歎。と。勘。す。  
 法皇。此。の。事。を。ゆ。め。悦。む。あ。り。と。又。い。ふ。目。め。逢。く。歎。と。と。  
 仰。ける。同。十二。日。宗。盛。卿。は。入。道。殿。の。前。を。と。り。法。皇。の。法。上。を。い。ふ。事。は。

やこれけ。六。漸。の。ひ。直。と。法。皇。を。鳥。羽。殿。より。都。へ。還。御。す。  
 ち。の。八。條。鳥。丸。美。福。門。院。の。御。所。へ。入。り。さ。る。今。三。日。が。中。の。悦。と。是。を。と。  
 づ。る。処。に。能。野。別。當。湛。増。が。飛。脚。到。着。し。高。倉。宮。の。謀。叛。の。事。都。へ。注。  
 進。す。依。り。右。大。將。宗。盛。卿。大。小。騒。ぎ。其。節。入。道。殿。へ。福。原。ふ。ら。け。る。小。  
 此。より。や。さ。と。入。道。殿。大。小。怒。り。其。儀。ち。と。高。倉。宮。を。擲。捕。と。土。佐。の。  
 細。へ。還。上。と。宣。ひ。し。上。卿。ゆ。三。条。大。納。言。実。房。卿。職。事。を。頭。弁。光。  
 雅。と。せ。し。武。士。の。源。大。夫。判。官。兼。綱。公。羽。判。官。光。長。混。甲。三。百。餘。騎。  
 宮。の。御。所。へ。ぞ。向。ひ。ける。此。兼。綱。へ。三。位。入。道。の。次。男。を。此。入。数。入。り。し。  
 宮。の。謀。叛。を。三。位。入。道。勸。め。し。平。家。の。事。を。知。り。し。り。ひ。あ。り。  
 長谷部信連剛勇の働高倉宮園城寺入御衆徒を頼め  
 去程の宮ハ五月十五夜の月を眺め何の心もくをせし。三。位。入。道。の。使。者。







物指ゆく御所坐さばい何ぞ子細をやらせよと云けは出羽判官  
 何方へ渡さるるに其後さるる下部たまりと搜しなれとやけるは  
 信連重と物も覚ぬ官人たの中松久馬小乗らるる門内へ参り奇怪  
 なる刺下部た搜しなれと争うやぞ長玄蒲尉長谷部信連は寄  
 と過まかどぞやける廳の下部の中小金武と云大刀の者打物の鞘を  
 信連小目を搦と大床の上へ飛上る是をさるる同隸共十四五人そ續て信連  
 尻をさるる狩衣の帯紐引切と弃衛府の太刀をさるる身を心ゆる作らせ  
 を抜合せ散と戦ゆる信連切立ちらと嵐小散木の葉の下と庭へ下り  
 ける十五夜の月雲間より頭と清明なる敵無業内ありと云はれつめく  
 切伏けらるる小宣旨の使を角へさるると云けは宣旨と何ぞと太  
 刀曲め躡退と踏直くとよぬ者十四五人討取其後太刀の鋒三寸餘打

折り腹を切んと腰を搜せども鞘巻落とちりけは力及む大を捕  
 高倉表の小門より跳かんとさるる処大長刀持る男入寄逢り信連長  
 刀小乗んと飛と搦るが兼損ト服を縫と貫と大勢取籠る由空一  
 生捕とちりぬ其後御所中乱入と搜せども宮へ渡せぬ信連斗搦と  
 六波羅へ引立歸りける次第とやぬいと宗盛卿大床小立と信連を  
 引居させは宣旨の使と名乗を宣旨と何ぞと切りける其上  
 廳の下部たヨクと殺害せよと此者能く糾向くと子細具ふ其後何  
 原ふ引くと首を刎ると宣ひける信連大膽の剛の者めく居直るとか  
 と打笑ひ此程へ高倉の御所を夜く物窺ひに何条とのけらと心  
 慢と用心も仕ぬぬ夜半をり小籠る者共二百打入を何者  
 ぞと尋らば宣旨の使とやハ當時堵固の強盗た或ハ公達の合せらぞ



或ハ宣旨の使ぞと名乗ヤテ豫ク承ケル程ニ宣旨ハ何ぞと切  
 い信連物の具ども必極小仕テ假能太刀をも持ツル唯今の官人よ  
 も一人安穩ゆる帰レバ其上官の在所ハ更ハ存セバ縦ひも  
 いとく侍のヤキトと存切と云ハ何松糾向みと云ハ松糾ありと其  
 後ハ物も言ハ左に付テ並居ル平家の侍テ哀と剛の者や是等を  
 入當十のまもも云々口口みかけぬ或人各へちや先奉大番  
 衆の留難あざり。強盗六人を唯一人追駈二条堀川ゆく四人切  
 伏ニ生捕と引來ぬ其賞も云々。左兵衛尉ぞ。可惜男の  
 斬とんと無慚と云と惜あり入道殿の多ひけんさへ斬ると伯  
 耆の日野へ流されたる平家滅び源氏の世と云り。時東下。梶原平三  
 景時ハ就。事の根元一々け。鎌倉殿神妙と御感も。能登函

ゆ。恩地を給アケ。玄程ハ宮ハ高倉を北近衛を東賀茂川を佛  
 如意嶽ハ入多。往昔清見原天皇大友皇子ハ襲と吉野山ハ廿餘ハ  
 處女の姿を假せ多ハ一ハ遠。知ぬ山路を遙ク多。何習一のゆと  
 多。御足より血ハ沙と染と紅と残。夏艸の茂き或踏ひを暖方  
 三井寺ハ到着。心も死命の惜さ。衆徒を頼。入御と仰け。六  
 衆徒大ハ悦び畏。法輪院ハ御所を飾ひ。このど。痛勞帥ヤ。わ  
 十六日京中ハ此と隠と。騷動斜る。抑頼政入道。幸比日来  
 小似もは。謀叛を起され。故と尋れば平家の次男宗盛  
 卿不思。義の所行せ。根ぎせり。源三位入道の嫡子伊豆守仲綱。若  
 々。良馬を持。秘藏あり。鹿もゆく。乘走心むけ。無双の逸物名木下  
 と。宗盛卿使者を立。名馬を給。えい。と云



伊豆守返辞仰下さる馬ハ此ほど餘りぬ乗疲い云聊慰せんとも  
 田舎へ預きいと然り力及むともゆはちり一ヶ平家の侍其馬おそ  
 一昨日近もいひ昨日えうけい今朝も庭乗いつちを口くみける宗  
 盛卿さくハ吝惜ぬそ悪一とく侍を馳文をく一時の間ぬ五六  
 度とまける父之位是を空とみ金とみ丸める馬をたそと程人の  
 望ぬ畜ぐた久其馬使ぬ六波羅へせとやさうの老伊豆守力及  
 一首の歌と書添く六波羅へ送り候

恋〜ハあともさう〜刃はさる教とてやを故ちやうと

宗盛卿歌の返るさ〜哀と馬や馬ハ誠ハ好馬ぬありけりゆれども  
 餘りよ各つるが憎さぬまが名乗と鐵焼ぬせよと仲細と云金焼と  
 馬屋ぬ立らと客人来と笑ハ名馬ぬえいむちとやけと其仲細めり

鞍置引かせの是〜ととち宣ひける伊豆守此由傳へや刃代て  
 馬ちれた権威ぬ付く取るさある不刺天下の尖は種ぬをるを易う  
 ねと大ぬ憤けと父三位も大ぬ怒何余とるあんと以慢さかうの巻動あ  
 ぞ其其まちる命生と何うせん便宜と伺ひ責を討んといととが私  
 ぬのも立止と高倉宮を勧めやせと後とぬせける見ぬぢも天下の  
 人小松殿の忍びやせり或時小松殿茶内の序中宮のゆ方へ合せぬ  
 八尺許ある蛇指貫の左の輪を這廻りける重盛騒バ女房達も中宮  
 をも驚せると左のゆみ尾を押右のゆみ首を取直衣の袖の内へ引入  
 け立と六位やい〜とまける伊豆守仲細其時ハま備府の藏人ぬ  
 仲細と名乗とま〜此蛇を拾ぬ給く弓場殿を經と殿上の小庭  
 出御倉の小舎人を招け長給とと云けと大ぬ頭を掉とぬ玄ぬ伊豆守



カ及び我郎等競を召と捨りぬけり。其朝小松殿より好馬小鞍置と伊  
 豆守の并へまゐり。昨日の振舞優艶しくいひつと。身へ乗一の馬小  
 ぬ及陣外より傾城の許へ通ると時用らるゝとや越る伊豆守大臣  
 より賜ふとある馬添給といぬ。昨日の振舞へ還城樂小似といひ  
 一とぞや答げ。小松殿へかち小優たる例も多う。其弟中宗盛卿ハ  
 人の惜む馬を強め取のまゝ。天下の大事を引かざるぞ方角き同く  
 十六夜ぬ入へ道頼政嫡子伊豆守仲綱次男源大夫判官兼綱六條  
 藏人仲家。其子藏人太郎仲光以下三百餘騎館ぬ火を掛焼上と三井寺へ  
 参りまける。當家年来の待ぬ渡辺源三競龍口と云者弛後と留る成  
 六波羅一召と汝相傳の主三位入道が供とせど。とて留りて宣ふ競  
 畏く日来ち自然のともゆる。ま先より命をまらうとこそ存り今度

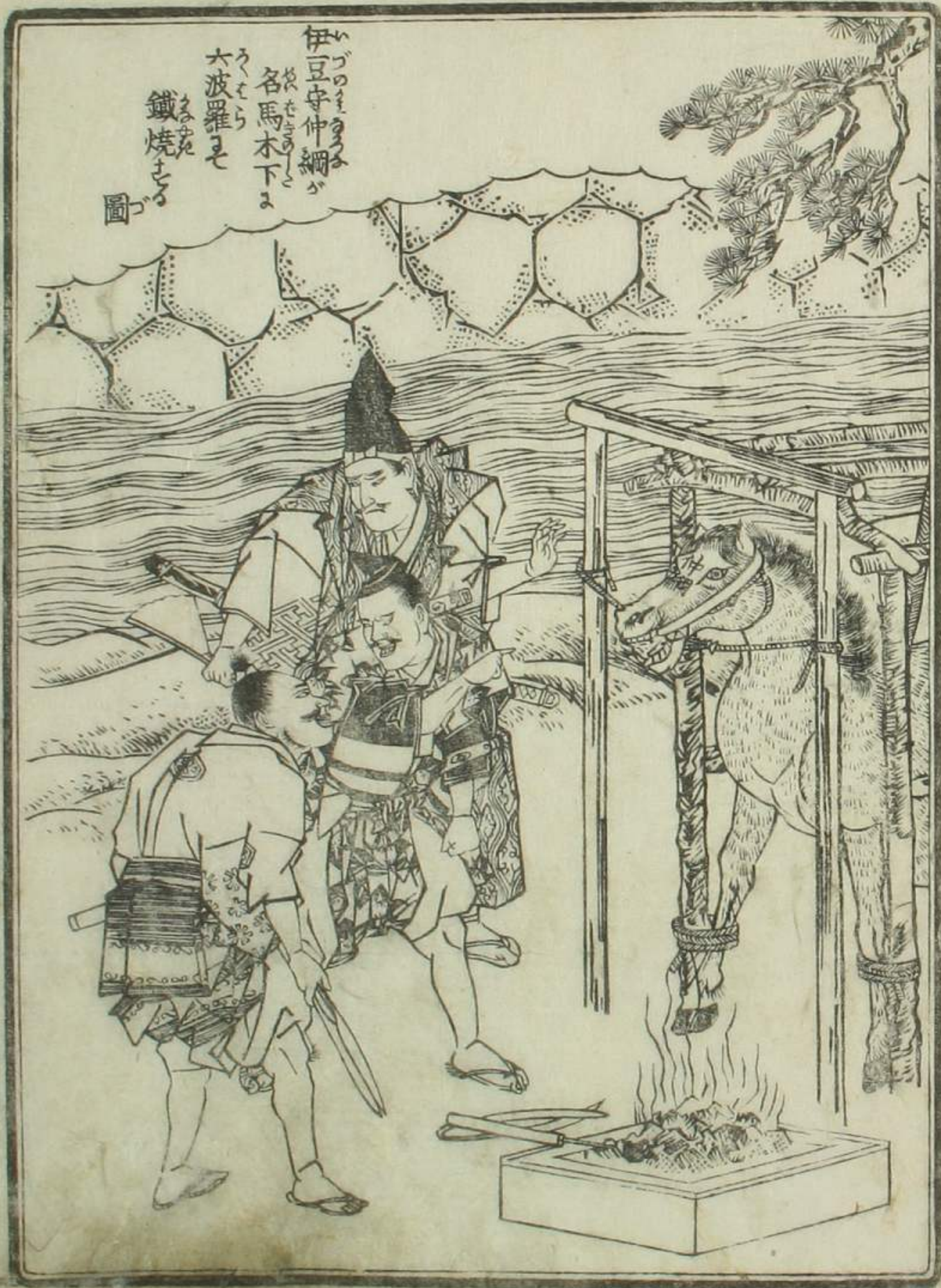
りいひやめりとも知れまはつる間留ていと。宗盛卿先途後采を存り當  
 家の就と奉公せや。又朝敵頼政法師ぬ同心せんとあやむのまふせと  
 宣ひける。競涙をまらくと流し縦に相傳のよみは朝敵とある人ぬ  
 同心をせり存せ。願く殿中ぬ奉公を遂度いと。大将さるべき公せ  
 よ頼政法師が仕けん思ゆと劣るまらぬとく入ぬぬ朝より夕へ直  
 息なく相拮けぬ。あまび宗盛卿立ちぬ競中へ城や三位入道へ三井寺  
 ぬとせえ。定て夜討ちぬどのや向らぬため入道の二類渡邊黨叔へ三井  
 寺法師ぬとぞいん心憎くもいぬ罷向と擇討せぬと。を公始ぬ覽  
 ぬ入ぬ。さる馬持といひ成此因と親き奴めぬ盗とぬ馬四下。預り  
 いづやとトけぬ。大将ぬともけぬとく。白草毛なる。暖延とく秘藏  
 ありぬ能鞍置と競小給入宿所小帰て妻子たぬ彼笑ぬ忍むけく



狂紋の狩衣菊より大きくふくろふ車代の着袴緋威の禮著く星  
白の甲の緒を縮り物作の太刀を帶二十四指たる大中黒の夫と肩籠  
口の骨法志と鷹の羽を作するの夫一ひを差添滋藤の弓持と煖  
延ふ打乘乗替二騎打具し舍人男の持楯服扱せ我家の火をひ焼上り  
三井寺へて弛りけし六波羅の競う家より火をとりと罵りて宗  
盛卿立ち競へあつ侍をばとや奴めはひめめと竊とぬるあれ追  
駈く討と宣た彼の大剛の夫續早のひ垂ちれば二十四指たる矢ぬを二十  
四人の射殺さしん音あせそとく進者ちりける三井寺ゆへ渡邊黨寄  
合とふふも競龍口を百見せせんをと口とみやける三位入道競が  
心を能知くやまらふ無下ぬ捕擲られし入道志深き者ちれば今糸  
らんとと言の下よつとあつり競や伊豆守殿の木下代ぬ六波羅の煖

延取く糸をひえんとく伊豆守限る悦び多く居髪を切金焼を  
しく其夜六波羅へせ一夜半斗の内へ追入り頓と殿入る馬かと  
嘴逢けよ其時舍人愕煖延が系てけと宗盛卿急ぎ出る小昔を  
煖延今平宗盛入道と云金焼をそ仕うけと大将悪き競め切て捨登  
りし今度三井寺へ寄ん人いふゆも競めぬ摘小せし編ゆと頭が  
斬んゆと跳上りて怒ら且一が煖延の尾髪も生け鐵焼も又失りけり  
去程小三井寺小大衆愈幾しける抑世上の體を案むる小王法佛法  
小衰微しく緇徒といは一日片時安住の多ひり今宮の入脚あること  
神明の眞助佛陀の加護と云ふ今相國入道を戒まんが殆佛法の滅却を  
至北嶺南都を悟らみ一味同心しく平氏を傾くべと衆幾決しけり  
先比叡山延曆寺へ王子八脚の由をすく台宗一圓の好身と以て力を裁







さしつへと。勝状きける。山門披る。評定しける。其文章。山門三井寺ハ門跡ニ。ふ分るといふ。学外ハ圓頓一味の教門。鳥の左右の翅み等。車の三輪小似。一方。互の歎。と書。と難。云。井寺ハ當山の末寺。鳥の朝車の論。壁言。押。書。条。奇怪。と。返。勝。も。及。其。上。相。困。入。道。座。主。明。雲。僧。ハ。衆。徒。を。靜。ら。さ。す。宣。ひ。其。上。相。困。の。謀。近。江。采。二。方。石。北。國。の。織。延。結。三。十。四。寄。是。谷。嶺。引。引。と。所。さ。く。又。三。井。寺。より。南。都。興。福。寺。の。扶。ハ。官。の。入。御。頼。小。付。身。命。と。揚。と。心。を。入。と。逐。ん。と。ま。且。無。勢。め。一。時。滅。亡。せ。ん。と。願。ふ。内。出。佛。法。の。破。滅。を。助。け。外。ハ。惡。逆。の。伴。類。を。退。治。一。身。同。心。の。功。を。成。賜。と。申。せ。け。る。興。福。寺。ハ。大。衆。評。定。し。是。ハ。互。の。事。と。云。ふ。事。知。る。也。大。勢。の。こ。も。急。決。着。時。明。三。井。寺。ハ。官。入。せ。り。ひ。て。より。大。関。小。関。堀。切。と。

堅固小備へ山門へ心替。南都へ。延。と。成。ぐ。い。と。や。今夜六波羅。夜討。見。先。老。少。二。も。分。老。僧。ハ。如。意。が。嶺。より。搦。み。へ。向。ふ。白。川。の。在。家。小。火。を。掛。焼。立。在。京。人。六。波。羅。の。武。士。あ。そ。事。案。ね。と。馳。向。ん。其。時。岩。坂。櫻。本。の。辺。小。暫。一。支。防。ぎ。戦。人。間。小。大。へ。松。坂。より。伊。豆。守。大。將。小。若。大。衆。惡。僧。ハ。六。波。羅。小。押。寄。風。上。小。火。を。放。と。一。探。め。と。責。ん。ふ。と。太。政。入。道。焼。か。と。討。と。と。食。残。さ。る。処。小。平。家。の。初。と。あ。一。如。坊。阿。闍。梨。真。海。ハ。弟。子。同。宿。數。十。人。引。具。か。く。や。平。家。の。方。人。と。も。多。と。ん。一。向。其。後。小。あ。衆。徒。の。名。を。多。當。山。の。名。を。惜。小。言。と。も。出。せ。れ。今。源。氏。の。運。傾。き。平。家。小。靡。ぬ。草。木。も。ち。り。小。勢。を。以。と。取。掛。ん。ハ。容。易。ゆ。叶。ひ。ご。能。く。壽。を。巡。一。勢。を。催。て。上。根。を。固。く。小。そ。多。小。俣。ゆ。も。打。勝。げ。と。程。を。延。さん。る。長。と。演。げ。小。兼。田。坊。阿。闍。梨。慶。



秀ハ衣の下小萌黄白の腹巻に大太刀と帶。白柄の長刀を杖小つ死長身  
 儀ハ無用之澄柳の外引へくは先我寺の本願天武天皇春宮の御時  
 大友皇子ハ襲ヒ芳野の奥を出大和國宇智郡を去るハ其勢已  
 づ十七騎ハ是た伊賀伊勢ハ打越美濃尾張の軍を以大友を亡  
 終ハ位ハ即ハ窮鳥懐ハ入時ハ刺切人ハ其を哀む。自餘ハあつた  
 慶秀ガ門徒ハ於今夜六波羅ハ押寄と討死せしと云程小豆  
 勵ハ大勢我れもくと同腹ハ先搦子ハ向ハ老僧の大將軍ハ源三位  
 入道頼政來ハ房阿闍梨慶秀律成坊阿闍梨日流師法印禪智其弟  
 子義宝禪永ハ先とく其勢一千餘人ハ小續松ハ振と如意ガ峯へ  
 向ハける大子の大將軍ハ嫡子伊豆守仲綱次男源大夫判官兼綱六條  
 藏人仲家其子藏人太郎仲光大衆ハ口滿院太輔源覺律成坊伊賀公

法輪院鬼佐渡成喜院荒土佐是ホの法師ハ弓前打物の達者飽まで剛  
 カ鬼中も神ゆも後とせざる入當千の面と平等院ハ因幡堅者荒大夫  
 角六郎房鳴阿闍梨筒井法師卿阿闍梨悪少納言北院ハ金光院  
 六天狗式部太輔能登加賀佐渡備後ハ松井肥後澄南院筑後加屋  
 筑前大夫俊長五智院但馬慶秀ガ房人六十人の内加賀光兼刑部  
 春秀法師原ハ一來法師堂衆ハ筒井浄妙明秀小藏尊月尊永慈  
 慶樂住鐵卷玄永武士ハ渡邊省播磨次郎投薩摩兵衛長七唱  
 競隴口右馬允與源太清渡邊歡以上ハ渡邊を先とく都合其勢二千  
 五百餘三井寺を打立け寺ハ宮入御の遠播楯うは逆茂木引られハ  
 堀小橋渡ハ逆茂木取除るごとく時刺推投と関路の雞鳴あり伊豆  
 爰ゆく鳥啼てハ六波羅ハ白昼ハ到るハいんがせんと云時口滿院太輔



源覺又進之昔孟嘗君の客鶏の声をうきく函谷関を欺き通り  
例もあらず是も敵の謀ゆく啼きともあらず唯寄と名とひこ押入行  
程の五月の短夜天明ぐとありけは伊豆守仲綱夜討とこそ期し  
を昼軍ゆくゆぐ叶ふべしあまの返せやと大ひに松坂より取く入  
擲ひの如意が嶺より引返す若大衆悪僧は是の如房が長食議ふ  
夜へ明く其坊切と推寄く坊を散く乱妨も防ぐ如の弟子同宿  
皆討て我身も負這く六波羅の事此由ゆけは元六波羅の軍  
兵数万騎馳集く些とを騒ぐ氣色有去程小宮へ南都へ未奉る此寺  
斗ゆくへゆめも叶ふべしと評議ある如南都より漸返來くや越  
越山領掌まといども散在の者もなき公勢の少く延引まへ近  
らんと来る然此方より入御あへんと同光三日晚三井寺と出させぬ

此時老僧へ皆の暇給と止められ若大衆悪僧を具せし南都へ落させ  
の三位入道同一族渡邊黨まで其勢一千五百餘人衆圓房慶秀旭の  
杖の須御前ふ泰双眼は涙を待て老僧何國ヤとも供と存せし年既  
ふ八旬の越行歩も叶ぐて父の腹心の弟子刑部房俊秀を進せし是へ  
一とせ平治の合戦の故左典殿義朝がゆふゆふ六條河原小討死仕  
いひ相摸國の住人山内須藤刑部丞俊通が子ゆい聊河縁のいで懐  
かち立弟子のゆい心の底近く知る何國近も召具せしいへと  
涙をこぼし笛下けり宮も哀れむ何の好身ゆかくとやらん志の程  
添けしとく水涙ふられひひけり宮へまより馬ゆく打せし各隨ひなる  
叔又此宮蟬折小枝と名笛二管持多り蟬折へ鳥羽院のゆ時宋の帝が  
贈りあり。漢竹ゆく生くる蟬のどく節の附る三井寺の大進僧正



覺宗あきむね不仰あやむせ壇上のぼりふ立た七日しちじつの加持あまのりあり彫うせぬ。或時あるとき高松たかまつ中納言ちゆうなごん實平じつへい  
 卿きみ此こゝ笛ふえを吹ふと尋常ゆんじやうの笛ふえのおとく必かならずひ志こころと膝ひざより下した置おけし。此こゝ宮みや堪た能たのあむ相あ信しん  
 笛ふえやをけん。蟬せみ折おふけり。さくそ蟬せみ折おと召よせける。此こゝ宮みや堪た能たのあむ相あ信しん  
 ありませり。今いま限かぎと必かならず召よせん。金堂きんどうの弥勒みろく小こ菴あん参まりせぬ。いとや此こゝ官くわん  
 宇治うぢと寺てらとの間まゆく。六度むいど近ちかゆ落馬らくまあり。あまぐい寝ねるまり。いもあ  
 とぞ。宇治橋うぢはし之間の引ひ弛ち。平等院びやうどういんふ入いとま。い休息きよくあり。い六波羅ろくはらゆら  
 すとや宮みや工くわうそ南なんに落おささる。追おひりく。討うちをれ。大將軍たいしゆんふ左兵衛さへい  
 衛督ゑいとく知盛ちせい頭かぶ中将ちゆうじやう重衡じゆうかう薩さつ守しゆ忠度ちゆうと侍し大將たいしやうゆ。上総じやうそう守しゆ忠清ちゆうしゆ其その子こ上総じやうそう  
 太郎たうらう判官はんくわん忠綱ちゆうかう飛彈ひだん守しゆ景家けいけ其その子こ飛彈ひだん太郎たうらう判官はんくわん景高けいかう高橋たかはし判官はんくわん長綱ちやうかう  
 河内かゐ判官はんくわん秀圓しゆゑん武藏むさし三郎さんらう左衛門さゑもん有あ困こ越こ中次郎ちゆうじらう兵衛へいゑ盛續せいじゆく上總じやうそう五郎ごらう  
 兵衛へいゑ忠光ちゆうかう悪あく七兵衛しちへいゑ景清けいしゆと先まと。都合とくあ其その勢せい二万にまんに八千はつせん餘騎よるき木幡きわた山やま

打越うちこく。宇治橋うぢはしの詰つめゆ。押寄おしより。敵たか平等院びやうどういんゆとさくけし。用もちを作つく  
 二三箇度にさんかんど宮みやのあ方かたゆ。同どうう用もちを合あはせり。先陣せんじんが橋はしを引ひく。そ  
 過あまゆとさくけし。後陣ごじん是こゝをさつげ。我われ先まゆと進すすむ。先陣せんじん二百  
 餘騎よるき身み方かた推落おしおさる。水みづ小弱せうじやくと失なふけり。あまゆと西にし方かたの橋はしの詰つめゆ。打  
 ちく矢合やあひせと宮みやのあ方かたより大矢おほや俊長しゆんちやう五智院ごちいん但馬たにま渡邊わたべ省授しやうじゆ續つづ  
 源太げんたが射いける。矢やぞ楯たても堪たぬ。鎧よろいもろけ。透とりけり。源三位げんさんい入道にゅうだう今日けふ  
 と最期さいきとぞ。長ちやう絹きぬの鎧よろい直ちやく垂すふ。科皮威かひゐ。其その古ふる武ぶ刑けい品しん川がわの鎧よろい着きて態たいと  
 曹そうとみまらむ。嫡子ちやくし伊豆いず守しゆ仲綱ちゆうかう。赤地あかぢの錦にしんの直ちやく垂すふ。黒糸威くろいゐの鎧よろい入い  
 をほやく引ひる。是こゝも兜かぶとへ着きる。けり。あま五智院ごちいん但馬たにま大長刀たいちやうたうを授じゆ准じゆん入い  
 進すすめる。平家へいけふ是こゝを射いれ。射取いれやと。さくけし。み対たいる。但馬たにま少せうも騷さわげ。揚ある  
 矢やを潜ひそり降くだる。矢やを跳とり越こへ。向むかへ来きる。長刀ちやうたうゆく切きて落おさ。敵味方たかみかた



ひとしく見物せし。矢切の狙馬といえしける。まゝ堂衆の中ふ前井淨  
妙明秀へ黒草の鎧ふ五枚甲の緒を締黒漆の太刀と帶。大長刀と提  
是もひとしくすまのし。敵合遠きゆ長刀を捨弓ふ矢と番へ矢庭ふ  
敵十二人射取。十一人ふも肩せ。敵一筋残すける。又も長刀取上橋折  
をさうくと渡すける。長刀ゆくと向ふ敵五人難伏。六人の敵ふ逢。長刀中  
より打折と捨太刀引技と戦ひなると。敵八人切伏する内。兜の砕ふ嚴し  
く打當目貫元より折と。河へ落ける故頼如へ腰刀ゆくと。死狂ふ働きけぬ。  
兼山房慶秀が召仕ける。一来法師と云剛の者。後ふはぐくと。まゝ橋折扱  
淨妙前ふ在と通り難きま。御免いへと。淨妙が兜の綴ふを於とひと  
りと肩を跳越と戦ひける。よく敵を討取。其身も討死と。淨妙房も引  
取平等院の芝の上ふ物の具脱と休らう。矢目を筭と。六十三裏極矢

五所淨妙とみ本と。三井寺の大衆。原三位入道の二類。渡邊黨走と  
續く槁の行術を渡り。火花を散り戦ふ。平家の侍大将。上総守忠清  
大将知盛の前ふ。あまの境いへ橋の上の戦。火をるをり。痛くまの今ハ  
川を渡とく存け。折節五月雨の比水益つと。馬人多く亡び。いん淀一口  
へ向ふ。河内路へ廻り。いんやとやけ。下野國住人足利又太郎忠綱  
生年十七歳なる。うま進むか目かめる敵を討と。宮を南都へ入る。せ  
吉野戸津川の勢を馳集と。弥也大支ゆと。川を隔と。軍ふ調瀬を厭ひ  
いんや武藏上野の境。利根川を又新田入道へ渡。いん此川早と保と  
利根川程ゆと。いん某こそ先陣を渡。いんんとく。ま先ふ打入つけ  
や殿原とゆと。大胡大室。深須山上。那波太郎。佐貫廣綱。四郎大夫小野寺  
禪師。邊屋子四郎。郎等。宇夫方次郎。切生六郎。田中宗太と始と。いん

三巻の巻目







宇治を渡る  
圖



平家物語圖卷之四

〇七五

足利  
又太郎  
田原  
忠綱



平家物語圖卷之四

〇七四



平家の軍勢平等院の門内へ攻め戦ふ其間小宮と南都へ先立せよと  
 渡邊黨三井寺の大衆残を留し防矢と射けり三位入道ハ七十餘つと  
 弓の隙口を射させ痛むるも心静小自害せんとも平等院の内へ引  
 退くぬ敵襲ひ蒐と六次男源大夫判官兼綱父を延さんる返合せく  
 防ぎ戦ふ上總太郎判官が射ける矢小源大夫判官内甲を射させ疼処り  
 上総守が郎等次郎丸と云剛の者押るゝ無くと組どごとと落源大夫剛  
 カ勝アけん次郎丸と押へ頭を搔るゝ外へ平家のま共落合と兼綱を討てり  
 伊豆守も散く小戦ひ痛む餘多肩と平等院の釣殿ゆく自害せしと  
 其首下河邊藤三郎清親取と大床の下へ投入ける六條藏人仲家其  
 子藏人太郎仲光もさんぐ小戦ひ二所ど打死しと此仲家の故帯刀先  
 生義賢が嫡子と父討と孤ありしと三位入道養子とと不便せられしと

日來の恩義を報んと二牙死し痛しと三位入道西小向ひしを合せ高吉  
 小十念唱へ其の上の阿扇を置其上坐し

埋木のたはほとをまうりし身のをるそそ哀ありける

と詠長七唱りぞ小錯せよとと太刀先を腹に突立てしと唱首打く石  
 を益つけ宇治川の深きぬ沈めたり平家の侍た競籠口と生捕ふせと  
 目を配と六競も心のちるけん目管しと働敵餘多討取乱軍の中  
 腹切と矢けり口満院太補源覚の遙小宮も延させありんとと宇治川  
 飛入物の貝も矢は水底を溶や向の岸の上と三井寺へ帰ける飛驒守  
 景家の古きまゆく官の南都へ落させ身つらんと四五百騎鞭撻合せ  
 奇も官ハ二十騎半ゆく落るぬを光明山の鳥居の前ゆく馳付あり所  
 のどく射るるちを推が矢ととちる官の左の側腹に立けしと馬より



落ぬ。也頭を取とせ。鬼佐渡荒土佐荒大夫刑部俊秀。今何の  
 小命を各んと。散と小戦の同。枕小討死と。其中の乳母子。六條亮大夫  
 宗信。新野の池へ飛。藻草類。被覆。懐居。小敵。前。打透。良  
 みる。官軍。四五百騎。ゆめ。死。途中。淨衣。多。死。人の。頭。も。た。を。葬  
 の。本。より。か。せ。成。れ。バ。宮。ゆ。く。ら。り。死。を。捨。へ。と。宣。ひ。小。枝。と。云  
 名。笛。也。腰。小。差。敷。け。り。宗。信。走。り。取。付。を。と。と。受。た。怖。し。小。其。も  
 協。に。敵。退。く。他。より。這。上。り。濡。る。物。解。着。と。凄。と。都。上。り。成。惡。ぬ。者  
 さら。り。ける。玄。程。小。南。都。の。大。衆。七。千。餘。人。宮。の。也。迎。小。糸。ける。先。陣。小。木。津  
 小。進。之。後。陣。小。奥。福。寺。南。の。大。門。小。屯。す。る。小。宮。へ。や。討。と。あ。り。と。受。く。大  
 衆。力。及。ば。涙。を。押。く。止。す。今。五。十。町。を。り。延。び。り。今日。討。と。あ。り。す。た。ふ。  
 御。運。の。程。こ。そ。方。見。け。と。平。家。の。人。小。宮。兵。三。位。入。道。の。一。類。渡。邊。黨。三。井。寺

の大衆。た。小。五。百。餘。人。の。首。と。切。太。刀。長。刀。の。鋒。小。貫。さ。夕。方。六。波。羅。羅。歸。す  
 入。源。三。位。の。首。も。れ。ど。子。た。の。首。も。皆。尋。出。され。ぬ。宮。の。也。子。餘。多。り。と  
 八。條。女。院。小。侍。れ。伊。守。盛。教。が。娘。三。位。局。と。や。ける。女。房。の。胎。小。七。歳。の  
 若。宮。五。歳。の。姫。宮。也。座。け。り。入。道。相。國。若。宮。と。清。丸。と。や。さ。る。瓜。女。院。の  
 ろ。く。と。歎。き。あ。ひ。宗。盛。卿。達。と。清。と。仁。和。寺。の。御。室。の。弟。子。と。や。り  
 多。い。後。小。東。寺。の。一。の。長。者。安。井。宮。大。僧。正。道。尊。と。や。り。是。之。奈。良。ゆ。也。方  
 也。座。せ。り。乳。母。護。岐。守。重。秀。が。妻。重。秀。小。斗。也。也。出家。小。斗。北。國。へ。落  
 下。り。瓜。木。曾。義。仲。上。洛。の。時。主。め。進。せ。ん。と。還。俗。と。せ。ま。り。都。上。り  
 人。是。之。後。へ。嗟。峨。の。邊。野。依。ぬ。り。各。昔。通。乘。と。云。一。相。入。宇。治。殿。二。条  
 殿。と。君。三。代。の。関。白。ゆ。く。各。年。八。十。と。相。せ。り。小。遠。げ。又。聖。德。太。子。の。崇。峻  
 天皇。横。死。の。相。互。と。や。り。馬。子。大。臣。小。弒。され。ぬ。相。少。納。言。宮。と







矢は肩せ其身二重の狩衣の山鳥の尾ゆく作る尖矢二筋滋藤の  
 弓の取添南殿の大床の伺候しつ詰るの黒鬘く雲出する御殿と  
 まげすみ御惱と立駭頼政多とまじく雲中の怪けりのあり射損せ  
 世のあどとと親念一夫と番ひ八幡大神と心中の初能響くとと放て  
 をみ替しく礎と中と墮るのの猪早太走來り取と押短刀と以と  
 柄も巻も通とと續る九刀刺り變化と仕苗てのとつと上下と  
 火を燃しくつんぬ頭へ猿軀へ狸尾へ蛇も足へ虎鳴声鶴も似  
 たりける主上御感の餘り獅子王と云御劍を下する宇治左大臣殿を  
 取次をり頼政の賜んと階と半下させぬ折ふ卯月十日餘り雲井の  
 郭公二声之声音信通りける左大臣殿  
 郭公名をと雲井よあづるかと仰けと一頼政左の袖

と播げ入その月を少一衛目ゆるり

弓をり月のゆるりやせとつげ御劍と給ふと頼政も  
 武藝の限は歌道も又勝まると賞翫せられり又志保の比二條院に  
 在位小鶴と云化鳥禁中鳴と屢宸襟之惱一をる正あ先  
 例小任せ頼政を召ける比へ五月十日餘未宵小雨一陣鶴只二声音信  
 二声とも鳴りり目刺もあつね磨るは女形もまぶさゆ  
 矢ま空何とぞ定め難頼政籌小先大猶矢打番ひ一声や一内裏の  
 上を射上り鶴此音小駭き虚空小暫そひらめける次小猶取番  
 ひいふと射切と鶴と並り前中落り禁中ゆめた渡り頼政  
 小御衣を被させ給ふ大炊御門右大臣公能公取次をり頼政小被させぬ  
 とく昔の養由の雲の外小鶴を射今頼政へ雨の中小鶴を対うとぞ





六條亮大夫宗信  
鹿病の圖

平家物語

平家物語



感念

五月号名をあらたせ奉る。今宵の如く。と仰る。とけし。頼政。  
 多そか。燈の光もすだぬと。おのり。と仕。御衣を肩。小。襦袢。かき。  
 其。後。伊。豆。園。を。賜。り。子。息。仲。綱。受。領。ふ。り。我。身。三。位。一。と。丹。波。五。箇。庄。若。  
 狭。の。東。宮。河。を。知。行。り。さ。て。お。の。り。一。人。の。よ。り。多。く。謀。叛。を。起。し。宮。を。  
 毛。失。ひ。給。ふ。せ。其。身。も。子。孫。も。亡。び。果。ぬ。る。ま。る。る。日。来。ハ。山。門。の。大。衆。猥。  
 き。訴。は。る。小。今。度。へ。の。び。ひ。入。穩。便。を。存。し。音。を。も。せ。然。る。依。南。都。三。  
 井。寺。同。か。く。宮。の。心。謀。叛。小。荷。膽。せ。是。以。て。朝。敵。之。此。上。の。奈。良。を。寺。  
 を。攻。ら。る。と。や。先。三。井。寺。と。同。き。五。月。廿。七。日。大。將。軍。少。左。衛。衛。  
 督。知。盛。副。將。軍。少。薩。守。忠。度。都。合。其。勢。二。万。餘。騎。園。城。寺。突。向。け。寺。  
 中。も。大。衆。一。千。餘。人。曹。の。緒。を。締。搔。楯。を。逆。茂。木。引。く。待。け。り。卯。刺。り。

軍。叛。二。日。戦。暮。一。夜。入。り。大。衆。以。下。法。師。を。小。至。る。迄。二。百。餘。人。討。と。  
 ぬ。夜。軍。中。の。層。さ。暗。し。官。軍。寺。中。の。攻。入。り。火。を。放。り。焼。る。如。本。堂。院。成。  
 喜。院。真。如。院。花。園。院。大。宝。院。清。隆。院。普。賢。堂。教。待。和。尚。の。本。坊。本。尊。八。  
 間。四。面。の。大。講。堂。鐘。樓。經。藏。灌。頂。堂。護。法。吾。神。社。壇。新。熊。野。の。宝。殿。都。々。  
 堂。合。塔。廟。六。百。三。十。七。宇。大。津。の。在。家。一。千。八。百。五。十。三。宇。を。小。智。燈。の。渡。り。  
 一。切。經。七。十。餘。卷。佛。像。二。千。餘。體。忽。ち。煙。と。り。り。を。淺。猿。之。所。諸。天。五。妙。の。興。り。此。時。  
 永。く。尽。龍。神。三。劫。の。苦。を。亦。盛。ん。を。も。ん。と。ぞ。ま。し。そ。三。井。寺。近。江。の。美。大。領。  
 が。私。の。寺。に。天。武。天。皇。の。寄。り。り。願。を。成。す。本。佛。も。彼。帝。の。本。ま。然。る。  
 然。生。前。の。弥。勒。と。す。教。待。和。尚。百。平。年。行。く。大。師。の。附。屬。し。多。り。觀。史。言。  
 天。上。尊。尼。室。殿。より。天。降。を。り。龍。華。下。生。の。曉。を。待。せ。り。と。そ。ま。つ。ふ。ふ。ふ。  
 して。の。た。ぞ。大。師。此。を。傳。法。灌。頂。の。灵。跡。と。し。井。花。水。之。を。仰。び。ら。ひ。也。



三井寺（本名）名付（本名）園城寺（本名）から目かたを聖迹と云ふ其頭密も須臾（本名）六（本名）加  
 藍更（本名）火焚の（本名）残（本名）了（本名）之密道場（本名）も（本名）け（本名）は（本名）給（本名）の（本名）色（本名）も（本名）岐（本名）も（本名）夏（本名）の花（本名）も（本名）存（本名）れ（本名）を（本名）願（本名）  
 加（本名）の（本名）音（本名）も（本名）せ（本名）ざ（本名）り（本名）け（本名）り（本名）宿老碩徳（本名）の名師（本名）行学（本名）小忘（本名）了（本名）受法（本名）相兼（本名）の弟子（本名）入（本名）經（本名）教（本名）所（本名）  
 別（本名）と（本名）う（本名）寺（本名）の（本名）長（本名）吏（本名）田（本名）慶（本名）法（本名）親（本名）王（本名）天（本名）王（本名）寺（本名）の（本名）別（本名）當（本名）也（本名）苗（本名）ら（本名）と（本名）ら（本名）其（本名）外（本名）僧（本名）綱（本名）十（本名）二（本名）入（本名）廟（本名）  
 官（本名）せ（本名）れ（本名）く（本名）皆（本名）檢（本名）非（本名）違（本名）使（本名）み（本名）預（本名）け（本名）る（本名）堂（本名）衆（本名）ハ（本名）筒（本名）井（本名）海（本名）妙（本名）明（本名）秀（本名）兩（本名）至（本名）る（本名）也（本名）千（本名）餘（本名）入（本名）流（本名）れ（本名）  
 け（本名）か（本名）る（本名）天（本名）下（本名）の（本名）乱（本名）と（本名）國（本名）王（本名）の（本名）騒（本名）ぎ（本名）唯（本名）ら（本名）と（本名）も（本名）免（本名）れ（本名）平（本名）家（本名）の（本名）世（本名）の（本名）手（本名）之（本名）成（本名）る（本名）充（本名）表（本名）等（本名）ん（本名）と（本名）入（本名）と（本名）平（本名）け（本名）る（本名）  
 高（本名）倉（本名）宮（本名）茂（本名）仁（本名）親（本名）王（本名）以（本名）仁（本名）の（本名）取（本名）違（本名）也（本名）高（本名）倉（本名）院（本名）の（本名）皇（本名）子（本名）守（本名）貞（本名）親（本名）王（本名）持（本名）明（本名）院（本名）宮（本名）  
 の（本名）御（本名）子（本名）と（本名）茂（本名）仁（本名）と（本名）や（本名）今（本名）五（本名）代（本名）の（本名）帝（本名）堀（本名）河（本名）院（本名）是（本名）高（本名）倉（本名）宮（本名）又（本名）甥（本名）の（本名）御（本名）續（本名）み（本名）  
 と（本名）出（本名）大（本名）伯（本名）父（本名）の（本名）御（本名）諱（本名）と（本名）同（本名）く（本名）附（本名）多（本名）ん（本名）事（本名）も（本名）志（本名）く（本名）も（本名）出（本名）平（本名）家（本名）物（本名）語（本名）の（本名）事（本名）成（本名）  
 多（本名）く（本名）思（本名）来（本名）と（本名）の（本名）事（本名）成（本名）

平家物語圖會卷之四終



